

アルミ水素火力発電 富山で計画

アルハイテックが
事業化に向け調査

環境ベンチャーのアルハイテック（富山県高岡市）は、アルミを原料として製造した水素を燃料に使う「アルミ水素火力発電」の事業化に向けた調査に着手すると発表した。調査は環境省の助成事業として来年

二月まで実施。二〇二六年ごろに富山県内で出力三百二十万キロワットの発電所を目標とする。

同社は工場から排出されるアルミの端材を特殊な溶液で化学反応させ、高効率に水素を発生させる技術を持っている。製造時に二酸化炭素（CO₂）を排出しないため脱炭素化にも貢献で

きる。水素とともに発生する水酸化アルミは、難燃材として住宅建材などに使われている。

調査は環境省の助成金一千万円を受けてアルミ水素火力発電の有用性や富山県内の事業候補地、全国展開の可能性などを調べる。同社は将来的には千石程度の発電所を富山県内で五カ所、全国で百〜二百カ所の設置を見込む。（中平雄大）